

第4章 吉川市の将来のすがた

4-1 目標年次

本計画における目標年次は概ね20年後の

平成33年度(2021年度)

とします。

なお、見直しについては社会経済情勢の変化を踏まえて柔軟に対応します。

4-2 まちづくりの基本方向

4-2-1 まちづくりの目標

総合振興計画の将来像、市民意向、現況の特性を踏まえ、都市計画マスタープランの目標を設定します。

総合振興計画における都市の将来像

「人とまちが輝く 快適都市 よしかわ」

市民意向

「人と自然との共生、安全・安心で暮らしやすい生活重視のまちづくり」

現況の特性

「良好な住宅地の整備が進む首都圏における住宅都市」

「江戸川・中川や水路等の水辺空間と

屋敷林や田園等の緑により構成される田園都市」

まちづくりの目標

人と自然をはぐくみ

ゆとりとやすらぎのある住みよいまちづくり

4-2-2 まちづくりの方向

まちづくりの基本的な方向を以下に示します。

人と自然をはぐくみ

ゆとりとやすらぎのある住みよいまちづくり

【土地利用】 **人と自然が共生する環境に配慮したまちづくり**
市の発展に合わせ、多様なニーズに対応した市街地の形成
活気に満ちたまちにするための産業の振興
人と自然の共生を図るまちづくり
集団的な優良農地の保全

【都市施設】 **豊かな生活空間を創出するための都市の骨格づくり**
都市内及び都市間移動の利便性を高める道路・交通網の形成
公共施設等へのアクセスを強化するネットワークづくり
維持管理などによる既存ストックの有効活用
自然環境を活用した余暇空間の創出
高齢者や子供たちがふれあえる場の創出

【都市環境】 **人にやさしい快適な都市環境の形成**
水と緑を活かした住環境の形成
快適な暮らしの実現と低炭素社会への貢献
防犯に配慮した安心して暮らせるまちづくり

【都市防災】 **災害に強いまちづくり**
避難路、避難所ネットワークの強化
住宅密集の解消による安全・安心なまちづくり
治水対策による水害に強いまちづくり

【都市景観】 **水と緑に出会える都市空間の創出**
江戸川・中川などを活かした水辺景観の形成と保全
農地と屋敷林や集落の織りなす一体的な景観の保全
まちなみに配慮した質の高い市街地景観の形成

4-3 吉川市の将来都市構造

4-3-1 まちづくり展開の視点

吉川市の都市構造を空間の構成要素である、面、点（拠点）、線（軸）という3つの視点でとらえるとともに、現在を踏まえ将来における都市の骨格形成の在り方を整理します。

ここで導きだされる、将来あるべき都市構造をもとに全体構想を展開します。

（1）面

人口増加やゆとりある住環境の形成に対する計画的な受け皿づくり
多面的な機能を有する都市の後背地としての農地の保全
レクリエーション機能をもたせた農地の複合的な利用

（2）拠点

面の拡大に対応するため、機能別の拠点を分散した都市の形成
（拠点分散型の都市の形成）

（3）軸

都市間軸と都市内軸とによる軸の機能的な分担
都市間及び都市内の移動を円滑化する軸形成道路網の整備

4-3-2 将来の都市構造

上記の、3つの視点に基づき、吉川市が目指すべき将来都市構造の構成と将来都市構造図を次に示します。

（1）面の構成

面は、既存の市街地部を中心に将来的に拡大する市街地ゾーンと、その後背地である農地とレクリエーションの場を含めた田園・レクリエーションゾーンによって構成されます。

市街地ゾーン

既存市街地の整備と新たな市街地の開発により、快適な生活を支える、良好な都市環境の形成を図るべきゾーンとします。

田園・レクリエーションゾーン

農地と集落地を中心とし、現在の営農環境や生活環境を保全しつつ、市民に憩いとやすらぎを与える空間形成を図るべきゾーンとします。

(2) 拠点の構成

都市全体に対しバランス良く都市サービスを提供するため、以下に示す拠点形成を図り、多様な都市機能の充実をめざします。

商業拠点

吉川、吉川美南の両駅を中心とする地域、旧来から商店の立地する平沼周辺地域を商業拠点とします。

複合新拠点

吉川美南駅を中心とした武蔵野操車場跡地と吉川美南駅周辺地域を、各種都市機能を備えた複合新拠点とします。

産業拠点

東埼玉テクノポリスとその周辺地域を、流通や生産機能を中心とした産業拠点とします。

コミュニティ交流拠点

市民に開かれた新市役所と市民参加における情報発信源としての市民交流センターおあしす周辺を、コミュニティ交流拠点とします。

レクリエーション拠点

自然とふれあうことのできる豊かな市民生活を送る余暇空間として、県営吉川公園を中心とする江戸川周辺地域を広域的なレクリエーション拠点に、総合体育館と市民プール付近を市民スポーツのレクリエーション拠点とします。

防災拠点

江戸川沿いの八子新田、鍋小路地区に整備される吉川市河川防災ステーションを防災拠点とします。

地域拠点

上記各拠点の機能を補完するため、よりきめ細かい住民サービスの向上を目指し、地域別構想において地域拠点を設定します。

地域拠点は既存施設の有効活用を図り、その周辺整備とあわせ、福祉面や防災面、行政サービス面等、地域レベルの生活支援機能を高めていく拠点とします。

(3) 軸の構成

広域的な都市間の移動を支える都市間軸と、市内拠点への移動の連絡機能をもつ都市内軸の形成により、交通利便性の向上をめざします。

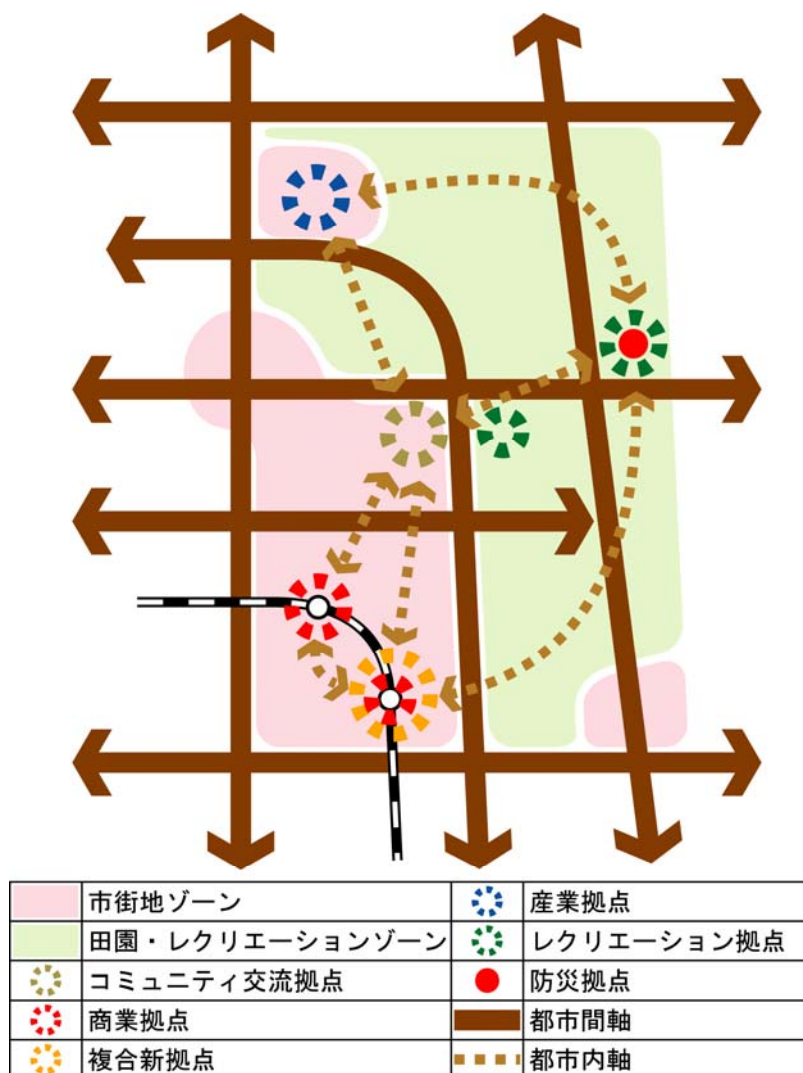
都市間軸

広域幹線道路である東埼玉道路と、本市を東西南北に縦・横断し、隣接市町へも連絡する主要幹線道路網により、都市間軸の形成を図ります。

都市内軸

都市内における円滑な交通を支えるため、上記の都市間軸と連携しつつ、市内各拠点を結びつける幹線道路網により、都市内軸の形成を図ります。

図 将来都市構造図



4-3-3 水と緑のネットワーク

前記の将来都市構造に加え、吉川市の特徴的な自然環境であり、都市生活の良好な環境要素である河川・水路をはじめとした「水と緑」を、都市の骨格を形成するもう一つの要素と考え、これらを活用した「水と緑のネットワーク」の在り方を整理します。

(1) 水と緑のネットワークの構成

江戸川、中川といった「吉川のシンボル」である2つの河川を「水と緑の骨格」とし、それらを水と緑の要素で結ぶことにより、市内の回遊ルートとしての「水と緑のネットワーク」を形成します。

水と緑の中心軸

江戸川、中川の水辺空間を活用した南北方向の軸

水と緑の補完軸

市内を流れる河川・水路や緑道・歩道等により市全域を網の目のように結ぶ軸

水と緑のネットワークの拠点

公園、ポケットパーク、学校、その他の公共公益施設等による水と緑を基調にした拠点

また、新たに整備する公園、緑道等についてはこの考え方に基づき、ネットワークを強化する構成要素のひとつとして整備し、ネットワーク全体の質の向上に努めます。

(2) 水と緑のネットワーク形成の意義

まちの魅力向上

身近な生活の場に水と緑とのふれあい空間が生まれ、うるおいあるまちを形成するとともに水と緑により構成される都市としての印象的な風景を創出することができます。

安全で快適な歩行空間や自転車道の充実

ゆとりある歩道や緑道を整備することで、子どもから高齢者までが安全に歩くことができる歩行系ネットワークを整備することができます。

また、安心して通行できる自転車道もあわせて確保が可能となります。

公共公益施設の利便性の向上

歩行者及び自転車利用者が公共公益施設を利用する際に自動車交通等を気にせず安心して、訪れることができます。

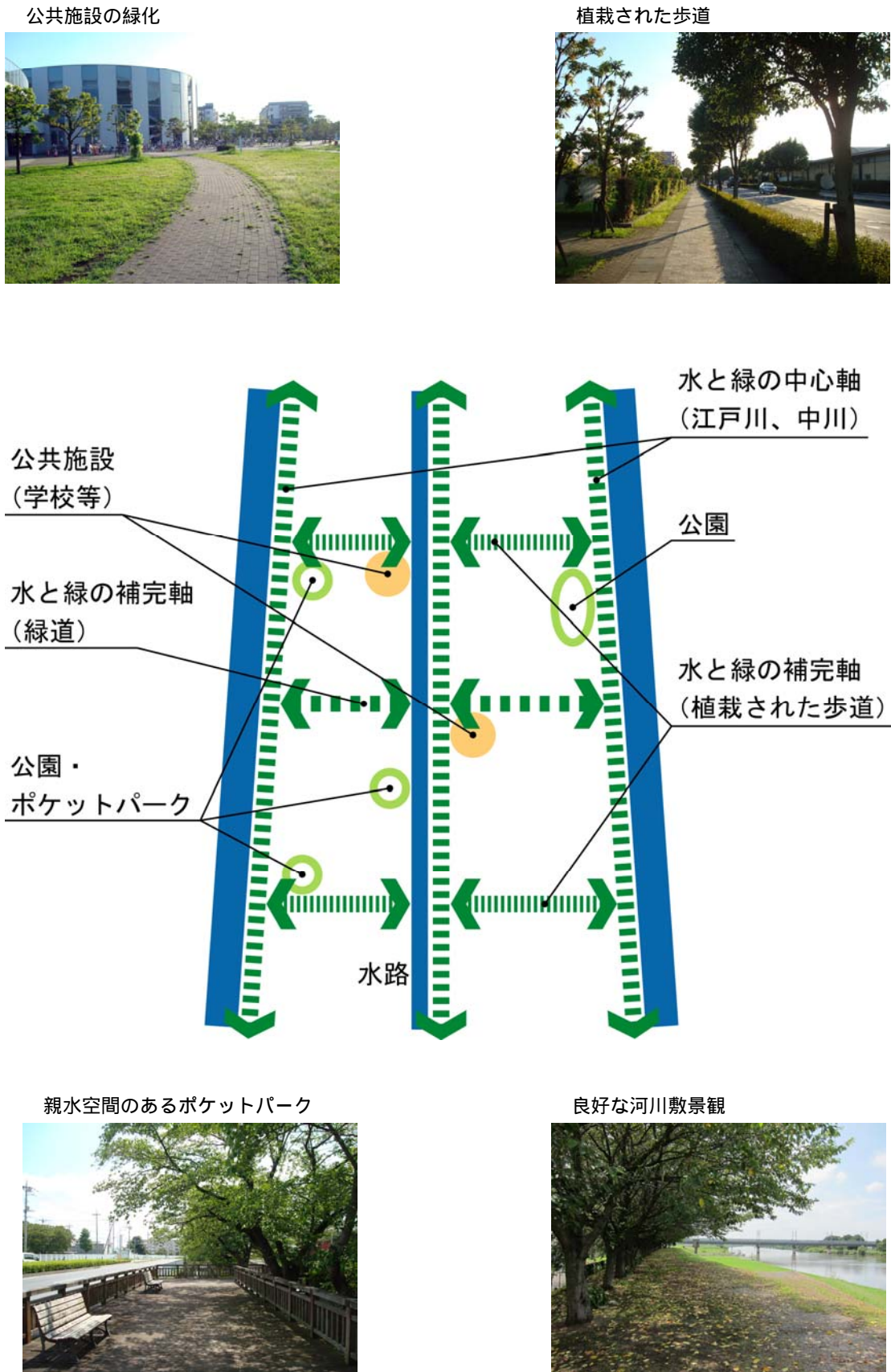
災害に強いまちづくり

市街地における火災の延焼防止帯や避難路として防災機能の向上を図ることができます。

生態系の保全

動植物の生息空間ともなる水辺や緑の空間が確保され、都市化の中で失われつつある生態系の保全を図ることができます。

図 ネットワーク概念図



4-4 将来人口の設定

将来人口は、第5次吉川市総合振興計画に沿うものとし、平成33年までの間においては、本市の立地条件からも進行中の土地区画整理事業地内への人口定着が見込まれることから、人口は引き続き増加する予測となっています。

本計画では、平成33年（2021年）における吉川市の将来人口を概ね75,000人と見込みます。

